



北海道具歌人会詠草

テロ許すまじ

江別 三宅 浩次

テロという怪物がいる無差別に罪なき人らに刃を向ける
あのパリの洗練された華やかさを一瞬にして恐怖に変える
テロという野蛮の極み誰のため何を目指して人を殺すか
本当の神がいるなら本当に人のためなら人を殺さぬ
極端な言動をもて欺かれる人の愚かさ命の軽さ

勤労奉仕

札幌 古屋 統

稲刈りを終えし田圃の拓がれる空知平野を電車北指す
中学生勤労奉仕稲刈りに駆り出されたる七十五年前
馴れぬ手に鎌を握れば誤りて指を刈りたる友あまたあり
減る腹を満たすに余る飯ありて中学生らもりもりと食う
巡回の数学教師を布団蒸し悪がきどもが不意を衝きたる

叙勲

美唄 吉村 誠治

米寿なる誕生日の今日報せ受く思ひもよらぬ叙勲の内示
続け来し四十年越ゆる学校医健康長寿の賜物ならむ
教えたる四千人の童顔は敬愛さるる看護師であれ
この國の物理学の底力ノーベル賞を相次いで受く
予言されし中間子然り乍らスーパーカミオカンデは質量明かす

マリーゴールド

札幌 浜島 泉

枯れ花のマリーゴールド摘み取りてバラの除虫に数くと言ふ人
焼き肉のガーデンパーティー蚊を避けて陽のあるうちに開始となせり
空港へリムジンが行く盃蘭盆の子連れ帰省の客が様ざま
顔の前扇子をかざし強き日を遮る今日は盃蘭盆の明け
雨上がり舗道這ひ行くカタツムリ踏まぬやうにと歩調を変へつ

旅路の果て

釧路 兎玉 昌彦

ポツポツと老爺がひとり弾くピアノ若き日の唄・デイルームの午後
難病の不自由なからだ・車椅子ジグソーパズルに忘れむとする
寝たきりの患者同士の口喧嘩向かって来いと言ふも悲しき
老妻の顔は分らぬ呆爺だが娘を昔の妻と認める
娘に帽子贈られ四六時離さざる呆けし老爺の想いいざこに

晩秋

旭川 稲積 文子

病弱な妻を尻いて去りし人商いのみの人生なりしと
援農の経験が今役立ちてキウリ、ナス、トマト、豊かな菜園
友多く逝きてしまえば未来など語らう事もなくて久しき
活気ある居酒屋の隅でひっそりと素朴な味を分け合う二人
美容師が最後に鋏を持って来て一本の顎鬚を切ってくれたり